

令和6年度 第1回教育課程編成委員会 報告

1. 開催日時

令和6年9月5日（木）16:30～17:45

2. 開催場所

3階会議室

3. 委員

	氏名	所属等	備考
	竹本 榮	大阪市私立保育園連盟副会長	
	宇都宮 彰治	元大阪市立学校園長	
	水戸井 ゆかり	第二善児園園長	
	萩野 寿美	勝山愛和第四幼稚園園長代理	
	川上 悦子	勝山愛和青葉台幼稚園園長代理	
	三上 教道	学校長	
	三上 聡子	学科長	
	西林 幸三郎	特任教授	
	吉本 春樹	専任教員	
	松葉 修孝	学務部長	
	中島 仁志	学務次長	

4. 議事

(1) 学校長挨拶

教育課程編成委員会の会議の趣旨及び、保育者養成において必要とする内容について、令和6年度に取り組む内容報告から教育保育現場の意見を拝聴し、本校教育の質の向上、社会が求める保育者の養成を目指して、教育課程、教育内容、授業方法、学習の評価の点検・見直し・改善に取り組んでいきたい。

(2) 報告

① 卒業学年の学生が自己の課題と考えている事項について

履修カルテ②<自己評価シート>から、学生が保育者を目指す上での課題と考えている事項を考証する。

- ・ 一部、二部共に、教育実践に係わる項目での自己評価が低い傾向にある。
- ・ 学生の自己評価を平均すると、クラス運営力 (2.9/5)、教育相談 (3.4/5)、教材分析能力 (3.5/5)、ICT の活用 (3.6/5)、授業構想力 (3.7/5) について、自己評価が低い傾向にある。
- ・ 教職（保育者）を目指す上で課題と考えている事項については、設定保育、指導案作成 (13人)、子どもへの接し方、声掛け (11人)、保護者対応 (7人)、発達段階を踏まえ

た対応（5人）、読み聞かせスキル・ゲーム・弾き歌い等（4人）があげられている。

② 卒業学年におけるプログラムについて

保育現場での実践力、即戦力を養うために、自己評価の低い項目を補完するための方策について。

a. 教職保育実践演習（2単位）

在学期間中に身に付けた専門的知識・実践力を振り返り、保育者として最低限必要な資質能力が備わっているかを確認する「学びの軌跡の集大成」として位置付けている科目。昨年度の授業内容としては、保育制度改革と保育者の資質、保護者対応と事例研究、子ども理解と気になる子どもの対応、指導案作成と模擬保育、保育の工夫、リトミックと音楽療法などがある。今年度については、上記の「履修カルテ②<自己評価シート>」を精査した上で授業内容を確定する。

b. 特別講座について

特別講座の設定理由は、「望ましい人格形成と豊かな教養及び、質の高い専門職の養成を目的として、社会人として必要な知識、保育福祉現場で役立つ内容を時事的・学際的に精選し、主体的な学びの意欲を高める。」ことである。今年度予定している講座は以下の通りである。

・ 手話

特別支援教育の観点から、聴覚障害者を理解し、聴覚障害者の生活・文化を知り、コミュニケーション手段である手話を学ぶ。

・ 絵本読み聞かせ

各年齢に応じた絵本の選択して、乳幼児に読み聞かせるための基本的な技能を身に付ける。

・ 子どもの遊びワークショップ

伝承遊びをはじめとした子どものあそび文化について、実際に「あそび」を体験することで、「あそび」の必要性を理解するとともに、あそびを通じてコミュニケーション能力を高める。

・ 救命講習

呼吸や心臓が止まったときに大切な「AEDの使い方」を含む心肺蘇生法で、主に乳児・小児に対する応急手当の方法を学ぶ。

・ 防犯講習

保育現場において、喫緊の課題である防犯対策を学び、子どもたちの安全を守るための知識を身に付ける。

・ メンタルヘルス講座

卒業・就職を控えて、自らの心身の健康や生活に影響を及ぼす様々な問題について事前に対処し、その影響を最小限のものにするためのセルフケアについて学ぶ。

・ 消費者講座

消費者被害に遭わないための契約や商品の安全に関する知識を身につけることに加

え、実践的な行動に結びつけることのできる能力を育む

- 租税講座

職業人として、税金や社会保険料の仕組みを理解する。

(3) 意見交換

- 自己評価シートの集計表からは、「学生が実習で何を学び取ろうとしているか」を知ることができる。実習中は言葉で聞くことはないことなので、現場で実習生を預かるときにとっても参考になります。
- 自己評価が低い項目については、教育保育現場での経験や実践から学び取っていく内容も多いように思う。特に保護者対応については、現場での経験が重要であって、最初からできることを期待しているわけではないので、安心して現場に来てほしい。
- 「指導案」については、机上で完結するものではなく、子どもに合わせて内容を柔軟に応用していく力が必要となる。それについても現場での経験の積み重ねで力がついていくので、最初から完璧である必要はない。学校としては、自己肯定感をもたせるような取り組みが必要なのではないだろうか。
- 学生に保育の楽しさをどう伝えるかが課題ではないか。保育士という仕事に対して大変だというネガティブなイメージばかりが強調されているが、そういったマイナスイメージを覆して、保育士という仕事の素晴らしさを伝えることが大切。
- クラス経営については、一人で責任を負うことへの不安があるのではないか。また保護者対応についても、クレーム対応等のイメージが先行しているのかもしれないが、それよりも教育相談の側面が強い。日頃のささいな事例をたくさん積み重ねていくことで対応する力が育っていくのであって、保護者と保育者の相互理解が大切である。保護者として自分の子どもが一番かわいいのは当たり前であり、保育者としてその点を理解する必要がある。保護者も保育者も子どもの健やかな成長を望んでいるのであって、互いに理解はしても対立することはないはず。仮にクレームがあったとしても、それは園全体で対応するのでひとりで対応するわけではない。
- 特別講座については、マナー講座を設定してはどうか。敬語の使い方などの言葉づかいや態度、笑顔など現場でも研修会を設けている。
- 生成 AI などにより現場での文書作成能力の必要性はこれまでよりも低くなっているように思う。同時に理論的な思考力についても低下しており、これは世界的な問題である。今後、より一層対話の重要性を再認識していく必要があり、言葉でのコミュニケーション能力を子どもたちに経験させ、高めることが大切だと思う。
-

以上の意見を元に、次回（第2回）に継続していくこととした。

令和6年度 第2回教育課程編成委員会 報告

1. 開催日時

令和7年1月23日（木）16:30～17:45

2. 開催場所

3階会議室

3. 委員

	氏名	所属等	備考
	竹本 榮	大阪市私立保育園連盟副会長	
	宇都宮 彰治	元大阪市立学校園長	
	水戸井 ゆかり	第二善児園園長	
	萩野 寿美	勝山愛和第四幼稚園園長代理	
	川上 悦子	勝山愛和青葉台幼稚園園長代理	
	三上 教道	学校長	
	三上 聡子	学科長	
	西林 幸三郎	特任教授	
	吉本 春樹	専任教員	
	松葉 修孝	学務部長	
	中島 仁志	学務次長	

4. 議事

(1) 学校長挨拶

令和6年度に取り組んだ内容の報告を元に前回と継続して、教育保育現場の意見を拝聴し、令和7年度に向けて本校教育の質の向上、社会が求める保育者の養成を目指して、教育課程、教育内容、授業方法、学習の評価の点検・見直し・改善に取り組んでいきたい。

(2) 報告

① 授業アンケート（授業評価）について

前回の教育課程編成委員会では、卒業学年における履修カルテ②<自己評価シート>から、保育者を目指す上での課題と考えている事項を考証したが、今回は学生による「授業評価アンケート（授業評価）」の結果から、授業に対する評価について報告したい。

設 問	令和 6 年度	令和 5 年度
① 授業の準備（授業の内容確認や予習）をして授業に臨んでいますか。	95.6%	88%
② 授業中、集中して意欲的・積極的（発言・発表等）に取り組んでいますか。	96.1%	93%
③ 授業を受けることで、自分の知識や技能が向上していると思いますか。	97.8%	94%
④ 教員の説明はわかりやすいですか。	93.2%	91.5%
⑤ 授業で使用したテキスト・資料は授業の内容理解に役立っていますか。	95.8%	94%
⑥ 質疑応答の機会が設けられており、質問に丁寧に答えてくれていますか。	94.5%	90.5%

- ・ 授業アンケートの集約結果によると、「1：そう思う、2：どちらかといえばそう思う」を合わせて、96%の学生が授業を肯定的に捉えており、前年度の 91.8%に比べて 4.2%向上している。特に、設問3「授業を受けることで、自分の知識や技能が向上していると思いますか」については、97.8%の学生が肯定的に捉えており、この間の授業改善の取り組みが学生の授業満足度に繋がっていると思われる。
- ・ 本校の学生の現状（多様な家庭環境で育った学生たちが多く、経済的に厳しい学生の割合も高い一方、大学や短大を卒業後に入学している学生も存在するため、学習スキルの格差が大きい。また、学生の一般的な傾向としても挙げられるコミュニケーション力や読解力の不足、学修意欲の低下がみられる。）をふまえて、学校として授業改善に取り組んできている。具体的には、模擬保育やグループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションといったアクティブラーニングの積極的な導入や、授業後の振り返り（授業コメントシート）といった授業改善に加えて、到達目標の理解度・到達度を評価基準として、その場で考えたりまとめたりする内容の課題等を学生に課すことによって、単に実技・知識の獲得に留まらず、「主体的に学び、考え、判断し、行動できる」保育者の育成をめざした取り組みを進めている。
- ・ 「授業アンケート（授業評価）」の結果から、こうした授業改善の取り組みが学生の授業満足度に繋がっていると思われる。上記の授業改善とともに「授業内評価」による学生の「授業に対する意識の変化」がある。しかしながら、学生個々でみると学習スキルが低くさから授業についていけない学生や日頃から授業を休みがちな学生もおり、その対応に苦慮している。
- ・ 両アンケートの結果については、集約の上、自己点検・評価委員会で審議し、フィードバックを含めて対応を行なっている。の授業評価の中で、特に対応を要する案件についてはFD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会として当該学生からの聞き取りを行って状況を把握し、それを元に当該教員との面談を行う他、必要に応じてシラバスの確認と授業の実態把握（参観）を行なって授業改善に取り組んでいる。

- ・ 現在の設問や実施方法がベストとは考えていないので、今後もより良い実施方法を考えていきたい。

② 令和7年度 教育課程について

18歳人口の減少推移に加えて、学生のニーズも多様化しており、学校として学生のニーズに合わせた学習環境の提供が必要となってきている。

- ・ 心理&福祉コースの開設 … 子どもの心を理解し、支援を要する子どもと保護者への支援の引き出しを増やしてキャリアアップを図る。
- ・ 夜間主コースの開設とオンデマンド授業の導入
- ・ 授業開始時間の変更等によって、学生の多様なライフスタイルに対応する。

(3) 意見交換

- 授業アンケートの結果は大変素晴らしいと思う。個々の意見については、学生の判断基準は様々ではあるが、それを踏まえた上で教員へのフィードバックの方法について考える必要があると思う。
- 心理&福祉コースについては、個別支援を視野に入れた密度の高い取り組みが必要になってくる。特に実習については、事前指導や実習園での取り組み状況を含めてより密度を高める必要があると思う。その意味では、実習園との密な情報交換が必要不可欠であると考ええる。
- オンデマンド授業については、コロナウイルス感染症の流行以降、オンラインでの授業形態が一般化した。あらためて対面授業の大切さを実感している。
- オンデマンド授業の実施については、留学生の増加や学校選択のグローバル化の中での方向性だと思う。今後は授業を欠席した学生への提供など、新たな展開もあり得るのではないかと思う。

これらの意見をもとにして、次年度以降における本校の教育課程について、より充実したものになるよう検討していきたい。